

# 多重複合形容詞と非連結語群

Multiple Compound Adjectives and their Non-hyphenated Equivalents

西部真由美

NISHIBU Mayumi

愛知大学国際コミュニケーション学部

*Faculty of International Communication, Aichi University*

*E-mail: mnishibu@vega.aichi-u.ac.jp*

## Abstract

This study aims at conducting the comparative analysis of multiple compound adjectives (MCAs) composed of more than three roots and their non-hyphenated equivalents appearing in *British National Corpus*. MCAs function as attributive adjectives, while the non-hyphenated equivalents seem to be idiomatic phrases, some of which can appear elsewhere in a sentence. Thus, the present study attempts to clarify how often the non-hyphenated word clusters appear and what features they show.

The results of the analysis show several interesting facts. The phrases occurring more frequently combined with hyphens than without hyphens tend to serve as an attributive adjective even when they are non-hyphenated. Semantically transparent phrases appear more frequently without hyphens, particularly in prepositional phrases. Semantically opaque phrases can become predicative adjectives more often than the others.

## 1. 多重複合形容詞と非連結語群

多重複合形容詞 (Multiple compound adjectives) とは、3つ以上の語基がハイフンで結合されて、名詞の前に置かれ、その名詞を限定修飾する形容詞のことである。西部 (2015) では、4語基以上で構成される複合形容詞について、英語と米語の両コーパスを用いてその頻度と特徴を探った。本研究では、4語基から成る頻出の複合形容詞と語の並びは同じ

であるが、ハイフンで繋がれていない語群（非連結語群）がどのような振る舞いをするのか、また多重複合形容詞との類似点と相違点を大規模コーパスを用いて検証する。

## 2. 分析方法

本研究では、イギリス英語の大規模コーパスである *British National Corpus* の Mark Davies 氏が提供しているオンライン版 (*BYU-BNC*) を使用した。用例を検索する範囲は書記言語のデータのみとし、音声言語のデータは音声表記の際の転写作業の偏りの影響が懸念されるため除外した。今回使用した最新版 *BYU-BNC* の書記言語データのサイズは、約8630万語だった。前回の分析の時点では8800万語であったが、最新版は重複している文例などを整理したためか、若干縮小されている。しかし、この差は、全検索例に目を通す本研究の様な分析には特に大きな影響を与えるものではないと考えられるため問題視しなかった。

分析方法は以下の通りである。西部 (2015) で明らかになった英語・米語に共通して頻出する多重複合形容詞14項目を対象とし、そのハイフンを削除してできる語群（非連結語群）について、コーパス付随の検索ソフトを使用して文例を抽出した。次の表1はその14項目と多重複合形容詞の意味を示したものである。

表1 英語・米語コーパスに現れる多重複合形容詞とその意味

state-of-the-art	最先端の	up-to-the-minute	最新の, 情報通の
run-of-the-mill	ありふれた, 平凡な	out-of-the-way	道を外れた, 並外れた
middle-of-the-road	政治的に中道の	once-in-a-lifetime	人生に一度の
turn-of-the-century	(20) 世紀末前後の	24-hour-a-day	1日24時間の
hole-in-the-wall	狭苦しい, ちっぽけな	dyed-in-the-wool	生粋の, 徹底した
top-of-the-line	トップ商品の, 最高級の	pay-as-you-go	都度払いの
spur-of-the-moment	時の弾みの, とっさの	live-and-let-live	お互い干渉せずに

なお、24-hour-a-day は24 hours a day として検索した。次に、得られた全検索例をエクセルに移し、頻度・文における統語機能・意味・コロケーションについて分析を行った。

## 3. 検索結果と考察

### 3.1 概観

前節で挙げた14項目の非連結語群について、コーパスを分析して得られた結果を次の表2にまとめた。語群を句構造別に分類し、頻度は100万語あたりで算出した。語群の果

たす文中での統語機能の粗頻度を上段に、全体における割合を下段に示した。また、形容詞については限定用法と叙述用法に分けた。ハイライトを施した箇所は、頻度では「ハイフンあり」と「ハイフンなし」で2倍以上高くなっているもの、限定用法の形容詞では著しく高い値を示す。

表2の多重複合形容詞と非連結語群の出現頻度を見ると、run of the mill, top of the line, up to the minute, dyed in the wool, pay as you go の5語群が「ハイフンあり」で2倍以上の高頻度になっている。つまりハイフンで結合されて多重複合形容詞として限定用法の形容詞となる場合が多いと言える。これらの5語群がハイフンで繋がれずに現れた場合の統語機

表2 多重複合形容詞（ハイフンあり）と非連結語群（ハイフンなし）の頻度

句構造	語群	頻度／百万語		文中での統語機能（粗頻度と割合）					合計
		あり	なし	限定	叙述	名詞	副詞	動詞	
NP	state of the art	1.61	1.52	65 49.6%	9 6.9%	57 43.5%			131
	run of the mill	0.50	0.19	10 62.5%	3 18.8%	3 18.8%			16
	middle of the road	0.42	1.10	4 4.2%	5 5.3%	86 90.5%			95
	turn of the century	0.35	5.25	9 2.0%		444 98.0%			453
	hole in the wall	0.13	0.68	6 10.2%		53 89.8%			59
	top of the line	0.13	0.05	2 50.0%		2 50.0%			4
	spur of the moment	0.10	0.81	4 5.7%	1 1.4%	65 92.9%			70
Pre.P	up to the minute	0.51	0.24	14 66.7%	5 23.8%		2 9.5%		21
	out of the way	0.32	6.07	12 2.3%	65 12.4%		447 85.3%		524
Ad.P	once in a lifetime	0.25	0.25	10 45.5%		2 9.1%	10 45.5%		22
	24 hours a day	0.10	1.39			3 2.5%	117 97.5%		120
VP	dyed in the wool	0.19	0.05	3 75.0%	1 25.0%				4
	pay as you go	0.23	0.10	3 33.3%		4 44.4%		2 22.2%	9
	live and let live	0.08	0.13	1 9.1%	1 9.1%	2 18.2%		7 63.6%	11

能を見ると、特徴的に限定用法の形容詞で使用されている割合が高いことがわかる（限定用法の割合：run of the mill (62.5%), top of the line (50.0%), up to the minute (66.7%), dyed in the wool (75.0%), pay as you go (33.3%)）。換言すれば、この5つの非連結語群は、各語の結束力が強く、ひとまとまりで限定用法の形容詞として使用される度合いが高いことがわかる。

叙述用法の形容詞句の割合を見ると、特に高い値を示したものは、run of the mill (18.8%), up to the minute (66.7%), dyed in the wool (25.0%) である。これらはハイフンで繋がれた形態でより多く現れ、ハイフンがなくても限定用法の形容詞で使用されることが多い語群として先に挙げたものである。意味的にも不透明な比喩的な意味を表す。

次に、表2の左端に示した非連結語群の持つ句構造別に見てみると、多重複合形容詞の場合とは異なり、それぞれの語群が句として別の統語機能を文中で果たしていることがわかる。形容詞としてだけでなく、名詞句語群の場合には文中でも名詞句として現れる。副詞句は副詞句として、動詞句は動詞句として文中で機能を果たすことも多い。前置詞句の場合には副詞あるいはbe動詞などの連結詞の後に来る形容詞句として現れている。

さらに、この点でも「ハイフンあり・なし」の出現頻度との関連が見られる。ハイフンあり、つまり多重複合形容詞として現れる頻度が非連結より2倍以上ある語群は、それ自体の持つ句構造と異なる機能を果たす割合が高いことがわかる。例えば、名詞句構造を持つ語群の場合、名詞句として機能する割合は90%に近いなかで、run of the mill (名詞句18.8%) は名詞句よりも形容詞句としての働きが主である。また、up to the minute (副詞句9.5%) は副詞句として働く割合が著しく少なく、動詞句の pay as you go (動詞句22.5%) は形容詞句や名詞句として機能する割合の方が高い。

見方を変えると、「ハイフンなし」の頻度が「ハイフンあり」より2倍以上（正確には5倍から20倍程度）になっている6項目 (middle of the road, turn of the century, hole in the wall, spur of the moment, out of the way, 24 hours a day) に関しては、句構造のままの機能を文中でもほぼ9割程度の割合で果たしていることがわかる。

これらの傾向から、ハイフンで繋がれて使用される頻度が高い語群ほどハイフンがなくても限定用法の形容詞として現れやすく、加えて叙述用法の形容詞句として現れる割合が他の語群より高い。対照的に、ハイフンがない語群の頻度の方が高いものほどその統語機能の種類に幅があると言えよう。

また、意味的に考えてみると、文字通りの意味で使用される、あるいは比喩と文字通りの意味の両方を持つ語群はハイフンなしで現れる頻度が高く、機能の種類にも幅があるが、比喩的な意味を専ら表す語群は形容詞句の働きをする傾向がある。

次節3.2から3.5では、句構造別に具体例を見ながら、さらに特徴を分析する。

### 3.2 名詞句

この節では、名詞句の構造を持つ語群を見て行くことにする。まず *state of the art* について詳しく見てみよう。この語群はハイフンの有無を問わず百万語あたりの頻度が約1.5回となる高頻度の語群である。表2の通り、ハイフンがない場合には高い割合(49.6%)で限定用法の形容詞句となる。一方で、名詞句の機能を果たす割合は他の語群と比較すると少ない割合(43.5%)となっているが、この2つの統語機能で主に現れることがわかった。限定用法の例が(1)、名詞句として使用されている例が(2)である。

- (1) English and Japanese chefs will work side by side in a 'state of the art' kitchen area preparing Japanese dishes such as Beef Teriyaki, Chicken Sashimi, ... (K9N W\_misc)
- (2) The present state of the art raises difficulty in carrying out the exercise described above due to the absence of acceptable methods in some specialities. (EVY W\_commerce)

例の(1)の文では、*state of the art* によって *kitchen* が限定修飾されており、(2)では *The present state of the art* という名詞句を形成している。この(2)の様に、名詞句の語頭には定冠詞が必ず置かれ、*present* や *current* といった「現在の」という形容詞が前置される場合が多く見られる。また、(1)の様に、*state of the art* が引用符で囲まれるものが文中の統語機能の種類にかかわらず検索例の1割程度に及ぶ。

割合では少ない(6.9%)ものの、この語群は(3)の様に叙述用法の形容詞としても現れる。

- (3) We believe the systems we have constructed here are state of the art. (CBY W\_commerce)

以上から、*state of the art* は頻度が高く、名詞句の句構造を持ちながらも文中では限定用法の形容詞句の働きをすることが多い点で、語基同士の結束が極めて強い語群と考えられる。

次に、「ハイフンなし」で現れる場合が圧倒的に多かった語群 (*middle of the road*, *turn of the century*, *hole in the wall*, *spur of the moment*) を見てみよう。これらの語群の特徴は、表2の通り、本来の句構造の名詞句として文中でも機能し、その割合が90%を超えている点である。したがって、限定用法の形容詞句として現れる割合が極めて小さくなっている (*middle of the road* (4.2%), *turn of the century* (2.0%), *spur of the moment* (5.7%), *hole in the wall* (10.2%))。前節でも述べたが、これらの語群は意味的には透明であって、このうち *hole in the wall* 以外の3つの語群は主に前置詞の目的語として現れることが特徴的である。

次の例 (4) は、middle of the road が前置詞 in と定冠詞の後に続く例である。この語群では in で始まる句形式が約 6 割 (58.9%) を占め into (7.4%) がその次に多くなっている。

- (4) Howard's eyes widened as he saw a man standing in the middle of the road, who, it seemed, they were about to run down... (FSR W\_fict\_prose)

同様のことが、turn of the century に関しても言える。この語群の場合には at (46.4%) と by (16.5%) で始まる前置詞句を形成する場合は圧倒的に多く、その他の時の表現に付随する前置詞 (from, since, before, until, around など) に従えられる例も見られる。次の (5) と (6) は at と by で始まる前置詞句を形成する例である。

- (5) In 1980, the United Kingdom population was 56 million, up from 19.7 million at the turn of the century. (J57 W\_ac\_polit\_law\_edu)

- (6) Some forecasts suggest that, by the turn of the century, 250,000 skilled people will have been lost to the industry. (HHX W\_hansard)

さらに同じことが spur of the moment にも当てはまる。前置詞 on と定冠詞に続いてこの語群が現れ、その割合は 91.4% にまで昇る。

- (7) I bought it on the spur of the moment after spotting it in Los Angeles. (CH1 W\_newsp\_tabloid)

最後に名詞句 hole in the wall について見てみよう。この語群はまさしく「壁の穴」を指す名詞句で使用される場合が表 2 の通り約 9 割を占めている。残りの 1 割が限定用法の形容詞であるが、「狭い」という意味のほか、以下の (8) に示すような現金自動支払機を形容する使用も見られる。

- (8) THE Bank of Scotland is to update its 'hole in the wall' cash dispensers to make them faster and safer. (K5H W\_newsp\_other\_commerce)

ここでも、ハイフンの代用として引用符が用いられていることは、注目に値する。

### 3.3 前置詞句

この節では前置詞句の構造を持つ語群が文中でどのような統語機能になるか詳しく見て行く。まず、「ハイフンあり」での頻度が「ハイフンなし」の2倍以上であり、非連結語群の限定用法での使用が66.7%と非常に高い割合を示した up to the minute について見てみよう。例 (9) では、ハイフンがなくても限定用法の形容詞として機能していることがわかる。

- (9) For details of how to get up to the minute information on both DEPARTURES and ARRIVALS from your local airport ring the following Index Line: 0836 402770. (AMD W\_misc)

この例では、名詞 information を修飾して「最新情報」という意味を表している。次の (10) はこの語群が叙述用法で使用されている例である。

- (10) PAUL JOHNSON SALES assistant Paul Johnson is up to the minute when it comes to fashion but that's hardly surprising. (K4C W\_newsp\_other\_social)

この例では「ジョンソン氏はファッションには情報通である」という意味を表す。なお、この語群に限っては、引用符で囲まれる検索例は皆無であった。恐らく、引用符がなくてもひとまとまりとして容認されている度合いが高いのではないかと考えられる。また、一般動詞と結びついて副詞的機能を果たす割合は低かった (9.5%)。

次に、非連結語群で最も出現頻度が高く、「ハイフンあり」の場合の19倍にもなっている out of the way について見てみよう。この語群は「道から外れた」という文字通りの場所を表す意味と、その意味から拡張して「並外れた」「風変わりな」「場違いな」という形容詞的な意味を持つ。特に、この非連結語群は移動の意味を表す一般動詞と共起して、現在の話題の中心の場所から動かす意味を表す例が多い。次の (11) は push と、(12) は get と共起した例である。

- (11) Michael pushed him out of the way. (CR6 W\_fict\_prose)

- (12) 'Just tell them to open the doors and get out of the way.' He raised his voice, looking up at one of the security cameras... (G04 W\_fict\_prose)

このほかにも共起する動詞の例は多く、離れたところに置く意味を表す have, get, keep、移動の move, slide, step、体の部分を使って押しのける elbow, kick, shove などが挙げられ

る。このためこの前置詞句は一般動詞とともに現れて副詞の働きをする割合が高い (85.3%)。したがって、この非連結語群が限定用法で現れる頻度は極めて低い (2.3%)。

### 3.4 副詞句

非連結語群が副詞句の構造を持つ once in a lifetime と 24 hours a day について見てみよう。一生に一度という文字通りの意味を表す once in a lifetime は、表 2 の通り、限定用法の形容詞句あるいは副詞句として同じ割合で現れた (45.5%)。次の (13) は「一生に一度の出来事」という意味で使われる限定用法の例である。

- (13) ... when he said that this evening's fight might be a once in a lifetime affair.  
(CEP W\_newsp\_other\_sports)

この語群は副詞句としても現れ、(14) は動詞 happen に続く例である。

- (14) This kind of thing happens once in a lifetime. (ADP W\_biography)

次に 24 hours a day が副詞句の働きをしている一般的な例 (15) を見てみよう。

- (15) Ring our special Tarot Line any time. Our line is open now, 24 hours a day.  
(G35 W\_pop\_lore)

この例の通り、この語群は「一日 24 時間」という継続時間を表す副詞の働きが殆どで 97.5% を占めている。

### 3.5 動詞句

最後に動詞句の構造を持つ 3 つの語群について考えてみよう。次の (16) では、dyed in the wool は後ろに来る名詞 colleagues を限定修飾する形容詞の働きをしている。

- (16) Neil Kinnock former idealist who realised that he has to temper idealism with reality and also persuade his dyed in the wool colleagues that their ideas were out of date.  
(K52W\_newsp\_other\_sports)

この語群は全体の用例数 (4 例) が少ないものの、限定修飾での使用が 75.0% に昇っており、やはりハイフンありの形態の方が 4 倍近く多くなっている。意味的にも不透明なた

め、語基の結束力は高いと言えよう。

次の (17) は、動詞句の構造を持つ非連結語群が動詞句として現れる例である。

(17) Her tastes merely appalled me, but she felt threatened by mine. She couldn't live and let live.

(BMR W\_fict\_prose)

この例は、「自分は自分で他人は他人」という決まり文句的な表現が、そのような生き方をするという意味で動詞句として現れることを示しており、動詞句での割合は63.6%となっている。

また、決まり文句として考えれば、次の (18) の様に語群が名詞句として機能する場合もある。

(18) It lacks tolerance, the spirit of live and let live and militates against Christian people, in particular Catholics. (K52 W\_newsp\_other\_sports)

この例では of の直後の名詞句的な非連結語群が spirit (精神) の内容を示して、「自分は自分で他人は他人という精神」という名詞句を形成している。

#### 4. まとめ

前節の第3.1節では、コーパスを使用した分析結果を表2にまとめ、主な傾向を分析した。また第3.2節以降では、句構造別に具体例を挙げながらそれぞれの非連結語群の特徴を分析した。これらの結果は、次の表3の通りにまとめられる。

表3の表す通り、本研究では *BYU-BNC* を使用した検索例の分析により幾つかの事実が明らかになった。ハイフンで結ばれる形式で頻度が高い語群は、多重複合形容詞としての傾向が強く、ハイフンがなくてもほぼ半数以上の割合で限定用法の形容詞句として使用されていた。一方で、ハイフンのない非連結語群の頻度が高いものは、限定用法ではなく本来の句構造の持つ機能を文中で担うことが多く、意味的には語の文字通りの意味を指す透明なものが多かった。多重複合形容詞として比較的頻度の高いものでも、ハイフンのない非連結語群として分析すると、その使用が大きく異なり、様々なパターンを示すことが明らかになった。

表 3 非連結語群の特徴

非連結語群	出現頻度 (ハイフン有無)	限定用法の割合	句構造と 文中の統語機能
run of the mill up to the minute dyed in the wool top of the line pay as you go	ハイフンが多い	高い (33.3~75.0%)	異なる場合が多い
middle of the road turn of the century hole in the wall spur of the moment out of the way 24 hours a day	ハイフンなしが多い	低い (0~10.2%)	一致する場合は約9割
state of the art, once in a lifetime	ほぼ同じで高頻度	高い (45.5~49.6%)	半々
live and let live	ほぼ同じで低頻度	低い (9.1%)	過半数が一致

## 参考文献

Davies, Mark. (2004-) *BYU-BNC*. (Based on *the British National Corpus* from Oxford University Press). Available online at <http://corpus.byu.edu/bnc/>.

西部真由美 (2015) 「英語・米語コーパスと英語辞典における多重複合形容詞」『文明21』第34号, 41-50. 愛知大学国際コミュニケーション学会.